

2017年度冬版 L2-Tech水準表 Ver.1.00

2017年度冬版 L2-Tech水準表_Ver.1.00 (2018年1月)

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2018年1月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区分		以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1 ：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2 ：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類 ：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別） ※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」
設備・機器等		設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）、及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
認証対象		2017年度冬のL2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○（または●*1）」、募集対象外の設備・機器等を「-（ハイフン）」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス（条件・能力）に付与（詳細は、実施要領に記載）
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2018年1月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*（アスタリスク）」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。（詳細は、実施要領に記載）
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価 ：JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価 ：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価 ：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価 ：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
試験条件		性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考		特記事項を記載。

記号の使用法

本水準表の中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。

「-」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または調整中。

「・」：AND条件。例）空調機（ヒートポンプ・個別方式） → （ヒートポンプかつ個別方式の）空調機

「/」：OR条件。例）空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

区分	L2-Tech リスト№	設備・機器等	(掲載数)
A 産業・業務 (業種共通)	空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	L-000334 ガスヒートポンプ L-000335 パッケージエアコン(店舗・オフィス用) L-000336 パッケージエアコン(設備用) L-000337 パッケージエアコン(ビル用マルチ) L-000338 氷蓄熱式パッケージエアコン	(5)
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)	L-000339 フロン類等冷媒ターボ冷凍機 L-000340 自然冷媒ターボ冷凍機 L-000341 水冷ヒートポンプチラー L-000342 空冷ヒートポンプチラー	(4)
	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補助機	L-000344 氷蓄熱ユニット	(1)
	熱源・空調機 (気化式・中央方式)	L-000346 間接気化式冷却器	(1)
	熱源・空調機 (吸収式・中央方式)	L-000347 吸収冷凍水機 (二重効用) L-000348 吸収冷凍水機 (三重効用) /廃熱投入型吸収冷凍水機 (三重効用) L-000349 一重二重併用形吸収冷凍水機 L-000350 木質ペレット直焚き吸収冷凍水機 (二重効用)	(4)
	熱源・空調機 (地中熱利用・中央方式)	L-000354 バッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機 (吸着式・中央方式)	L-000355 吸着式冷凍機	(1)
	熱源 (ヒートポンプ)	L-000356 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式) L-000357 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000358 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式) L-000359 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000360 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式) L-000361 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式) L-000290 熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-000362 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式) L-000363 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-000364 蒸気再圧縮装置	(10)
	空調機 (ベレットストーブ)	L-000291 密閉式ベレットストーブ	(1)
	給湯器 (ヒートポンプ)	L-000366 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
	給湯器 (ガス式)	L-000368 潜熱回収型給湯器	(1)
	ボイラ	L-000369 温水機 L-000370 蒸気ボイラ(貫流ボイラ) L-000371 蒸気ボイラ(伊呂管ボイラ) L-000372 蒸気ボイラ(水管ボイラ) L-000268 水素ボイラ(貫流ボイラ) L-000373 熱媒ボイラ	(6)
	コージェネレーション	L-000374 ガスエンジンコージェネレーション L-000375 ガスタービンコージェネレーション L-000376 燃料電池コージェネレーション	(3)
	冷凍冷蔵機器	L-000379 業務用冷凍冷蔵庫 L-000380 空気冷媒方式冷凍機 L-000381 冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/002二次冷媒システム) L-000301 自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	(4)
	照明器具	L-000382 LED照明器具	(1)
	プリンタ/複写機	L-000383 プリンタ L-000384 複合機	(2)
	モータ	L-000385 誘導モータ L-000386 永久磁石同期モータ	(2)
	変圧器	L-000387 油入変圧器 L-000388 モールド変圧器	(2)
	モータ利用機器 (圧縮機)	L-000397 蒸気駆動圧縮機 L-000398 熱回収式ねじ容積形圧縮機	(2)
	窓	L-000411 Low-E複層ガラス (LE3+A12-FL3) L-000412 三層Low-E複層ガラス (LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) L-000413 真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+V0. 2+LE3) L-000414 アタッチメント付きLow-E複層ガラス (LE3+Ar6+FL3 (アタッチメント付き)) L-000415 真空ガラス (LE3+V0. 2+FL3) L-000416 現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) L-000417 薄型Low-E複層ガラス (LE3+Kr4+FL3)	(7)
	断熱材	L-000418 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム) L-000419 断熱材(グラスウール) L-000266 真空断熱材	(3)
	洗濯機	L-000420 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)
	エネルギー管理システム	L-000424 BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)
	その他	L-000430 サーバ用電子計算機	(1)
	オフロード特殊自動車 (建設機械・内燃機関型)	L-000445 油圧ショベル (内燃機関型) L-000446 ブルドーザ (内燃機関型) L-000447 ホイールローダ (内燃機関型)	(3)

区分	L2-Tech リスト№	設備・機器等	(掲載数)
B 産業 (業種固有)	オフロード特殊自動車 (建設機械・ハイブリッド型)	L-000449 油圧ショベル (ハイブリッド型)	(1)
	オフロード特殊自動車 (建設機械・電気型)	L-000452 油圧ショベル (電動型) L-000453 ブルドーザ(電動型)	(2)
	洗浄乾燥機	L-000479 遠心脱水型コンテナ (容器) 洗浄乾燥機 L-000480 内部熱交換最適化蒸留システム L-000481 熱回収式工業用織物乾燥機 L-000482 熱回収式工業用織物熱処理機	(1)
	自動車 (内燃機関型)	L-000483 ガソリン・ディーゼル車 (乗用車) L-000484 ディーゼル・天然ガス車 (商用車・重量車)	(2)
	自動車 (ハイブリッド型)	L-000486 ハイブリッド自動車 (乗用車) L-000487 ハイブリッド自動車 (商用車・重量車)	(2)
	自動車 (電気型)	L-000489 電気自動車 (乗用車)	(1)
	空調機 (ヒートポンプ)	L-000527 ルームエアコン L-000528 ヒートポンプ冷水システム L-000529 ヒートポンプ式温水床暖房 L-000530 ルームエアコン付温水床暖房 L-000531 マルチタイプ温水床暖房	(5)
	空調機 (ヒートポンプ・地中熱利用)	L-000532 地中熱ルームエアコン	(2)
	空調機 (ヒートポンプ・地中熱利用)	L-000533 地中熱ヒートポンプ冷水システム (ハイブリッド式)	(1)
	空調機 (ベレットストーブ)	L-000534 密閉式ベレットストーブ(家庭用)	(1)
給湯器 (ヒートポンプ)	L-000497 家庭用エコキュート L-000498 多機能ヒートポンプ給湯機	(2)	
給湯器 (ヒートポンプ・太陽熱利用)	L-000535 太陽熱集熱器対応型エコキュート	(1)	
給湯器 (ガス式)	L-000499 ガス温水機器 (エコジョーズ)	(1)	
給湯器 (ヒートポンプ・ガス式)	L-000536 ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)	
給湯器 (石油式)	L-000537 石油温水機器 (エコフィール)	(1)	
給湯器 (太陽熱利用)	L-000539 真空管集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用) L-000540 平板集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	(3)	
コージェネレーション	L-000541 蓄熱槽 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用) L-000500 家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC) L-000501 家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)	(2)	
冷凍冷蔵機器	L-000502 電気冷蔵庫	(1)	
照明器具	L-000503 LED照明器具 (家庭用)	(1)	
テレビ	L-000542 液晶テレビ	(1)	
洗濯機	L-000521 洗濯乾燥機	(1)	
電気便座	L-000543 電気便座	(1)	
窓	L-000504 Low-E複層ガラス (LE3+A12+FL3) (家庭用) L-000505 三層Low-E複層ガラス (LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) (家庭用) L-000506 真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+V0. 2+LE3) (家庭用) L-000507 アタッチメント付きLow-E複層ガラス (LE3+Ar6+FL3 (アタッチメント付き)) (家庭用) L-000508 真空ガラス (LE3+V0. 2+FL3) (家庭用) L-000509 現場施工型後付けLow-E複層ガラス (FL6+A12+LE5) (家庭用) L-000510 薄型Low-E複層ガラス (LE3+Kr4+FL3) (家庭用) L-000511 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000512 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-000513 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000514 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-000515 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-000516 真空ガラス・樹脂サッシ L-000517 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	(14)	
断熱材	L-000518 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム) L-000519 断熱材(家庭用・グラスウール) L-000520 真空断熱材(家庭用)	(3)	
エネルギー管理システム	L-000525 HEMS (情報提供サービス・家電全般) L-000544 固体酸化物形燃料電池 (SOFC) 設備 L-000550 太陽電池(シリコン系・単結晶) L-000551 太陽電池(シリコン系・多結晶) L-000552 太陽電池(化合物系) L-000553 太陽電池(薄膜シリコン) L-000554 トランズレス方式パワーコンディショナ (太陽光発電用) L-000555 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ (太陽光発電用)	(1)	
水力発電	L-000562 プロペラ水車 (小水力発電用) L-000563 フランシス水車 (小水力発電用)	(2)	
地熱発電	L-000567 温水熱源小型バイナリー発電設備 L-000568 蒸気熱源小型バイナリー発電設備	(2)	
バイオマス発電	L-000571 ガスエンジン発電設備 (メタン発酵発電用)	(1)	
熱輸送	L-000572 潜熱蓄熱輸送設備	(1)	
リン回収設備	L-000594 リン回収設備MAP法 (L・尿・浄化槽汚泥用) L-000595 リン回収設備MAP法 (L・尿・浄化槽汚泥用) L-000596 リン回収設備MAP法 (下水汚泥用)	(3)	
F 廃棄物・リサイクル	L-000598 近赤外線樹脂選別機	(1)	

掲載合計： (139)

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	説 明								
														単 位	名 称			準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称			
L-000334	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	ガスヒートポン プ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポン プ方式の空調和機。	相当馬力数	7.5HP以下	• S-002139	1.19	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp=(Ccr+Chr)/2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr/(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(KW) Φhr: 定格暖房標準能力(KW) Gcr: 定格冷房標準 ガス消費量(KW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量 (KW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(KW) Phr: 定 格暖房標準消費電力(KW) ※COPpは、小数点3桁 目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。								
							7.5HP超10HP以下	• S-002112	1.22																
							10HP超16HP以下	• S-002110	1.33																
							16HP超25HP以下	• S-002150	1.34																
							25HP超	• S-002115	1.3																
							7.5HP以下	• S-002130	-									期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠
							7.5HP超10HP以下	• S-002134	1.39																
							10HP超16HP以下	• S-002143	1.86																
16HP超25HP以下	• S-002113	1.98																							
25HP超	○ S-002116	1.91																							

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式
					寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP以下	• S-002114	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp=(Ccr+Chr)/2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr/(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(KW) Φhr: 定格暖房標準能力(KW) Gcr: 定格冷房標準 ガス消費量(KW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量 (KW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(KW) Phr: 定 格暖房標準消費電力(KW) ※COPpは、小数点3桁 目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。	
							7.5HP超10HP以下	• S-002135	1.22										
							10HP超16HP以下	• S-002111	1.34										
							16HP超25HP以下	• S-002148	1.34										
							25HP超	• S-002108	1.27										
							7.5HP以下	- S-002107	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	
							7.5HP超10HP以下	• S-002153	1.39										
							10HP超16HP以下	○ S-002109	1.86										
							16HP超25HP以下	• S-002138	1.93										
							25HP超	• S-002132	1.85										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格
						発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	-	S-002144	-	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp= (Ccr+Chr) / 2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(KW) Φhr: 定格暖房標準能力(KW) Gcr: 定格冷房標準 ガス消費量(KW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量 (KW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(KW) Phr: 定 格暖房標準消費電力(KW) ※COPpは、小数点3桁 目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。
								7.5HP超10HP以下	-	S-002140	-									
								10HP超16HP以下	•	S-002102	1.34									
								16HP超25HP以下	•	S-002147	1.34									
								25HP超	•	S-002105	1.27									
								7.5HP以下	-	S-002152	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠
								7.5HP超10HP以下	-	S-002154	-									
								10HP超16HP以下	•	S-002145	1.86									
								16HP超25HP以下	○	S-002104	1.97									
								25HP超	○	S-002106	1.91									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標					
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
														単位	名称	標準する規格	規格の名称
L-000335	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ ア コン(店舗・オ フィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4 ~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	冷房能力	4.0kW以下	• S-002165	8.1	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠
							4.0kW超 5.0kW以下	• S-002156	7.9								
							5.0kW超 6.3kW以下	• S-002161	8.1								
							6.3kW超 11.2kW以下	• S-002163	7.3								
							11.2kW超 16.0kW以下	• S-002158	6.7								
16.0kW超	• S-002159	6.3															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	試験方法		試験条件		
														単位	名称	標準規格 による評 価	規格の名称	計算式
L-000336	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージア コン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9 ~140kW程度。主に工場向け。	28kW以下	○	S-002172	4.8	通年エネル ギー消費効 率(APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	
						28kW超 45kW以下	○	S-002166	4.2									
						45kW超 56kW以下	●	S-002171	4									
						56kW超 80kW以下	●	S-002173	3.9									
						80kW超 112kW以下	●	S-002169	3.5									
						112kW超 140kW以下	●	S-002174	3.5									
140kW超	●	S-002168	3.5															
					排熱利用型	冷房能力	9.8kW	●	S-002175	6.1	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8615-2	エアコン ディショナ -第2部: ダクト接続 形エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠	JISB8615-2	エアコン ディショナ -第2部: ダクト接続 形エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠。ただし、ユニット吸込温度に ついては55℃とする。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ		計算方法			試験条件	
													単 位	名 称	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
L-000337	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージア エアコン(ビル用マル チ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が 14～120kW程度。主にビル向け。室内機ごとの個別制御機能を持 つ。	冷房能力	14.0kW以下	• S-002176	6.7	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015に準拠			
							14.0kW超 16.0kW以下	• S-002186	6												
							16.0kW超 22.4kW以下	• S-002179	6.5												
							22.4kW超 28.0kW以下	• S-002177	6.3												
							28.0kW超 33.5kW以下	• S-002192	6.4												
							33.5kW超 40.0kW以下	• S-002188	6.2												
							40.0kW超 56.0kW以下	• S-002190	6.5												
							56.0kW超 69.0kW以下	• S-002189	6.4												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件				
												単 位	名 称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説 明			
						56.0kW超80.0kW以下	-	S-002200	-														
						80.0kW超112.0kW以下	-	S-002208	-														
						112.0kW超	•	S-002205	2.6														
L-000339	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空調 機 (ヒート ポンプ・ 中央方式)	フロン類等冷媒 ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒またはHFO冷媒を使用している。	冷却能力	200RT未満	• S-002222	6.7 *	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠					
						200RT以上300RT未満	•	S-002236	8.8 *														
						300RT以上400RT未満	•	S-002235	8.4 *														
						400RT以上500RT未満	•	S-002234	8 *														
						500RT以上600RT未満	•	S-002228	9.2 *														
						600RT以上700RT未満	•	S-002226	8.4 *														
						700RT以上1000RT未満	○	S-002227	9.1 *														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明			
						1000RT以上1500RT未満	• S-002225	9.29 *															
						1500RT以上	• S-002229	9.29 *															
						200RT未満	• S-002216	6.04 *	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB6621:20 11	遠心冷凍機	JISB6621:2011に準拠	JISB6621:20 11	遠心冷凍機	JISB6621:2011に準拠							
						200RT以上300RT未満	• S-002218	6.32 *															
						300RT以上400RT未満	• S-002214	6.31 *															
						400RT以上500RT未満	• S-002221	6.6 *															
						500RT以上600RT未満	• S-002220	6.5 *															
						600RT以上700RT未満	• S-002219	6.29 *															
						700RT以上1000RT未満	• S-002224	6.4 *															
						1000RT以上1500RT未満	• S-002223	6.5 *															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
												単位	名称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説明	
L-000340	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空調機 (ヒート ポンプ・ 中央方式)	自然冷媒ターボ 冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はRFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	1500RT以上	●	S-002217	6.5	-	期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠			
L-000341	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空調機 (ヒート ポンプ・ 中央方式)	水冷ヒートポン プチラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式リングユニット。	40.0kW以下	●	S-002243	4.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			
						40.0kW超80.0kW以下	●	S-002262	4.21												
						80.0kW超118.0kW以下	●	S-002268	5.41												
						118.0kW超180.0kW以下	●	S-002264	5.28												
						180.0kW超500.0kW以下	○	S-002286	5.57												
						500.0kW超1000.0kW以下	●	S-002290	6												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明			
						1000.0kW超1500.0kW以下	○	S-002292		5.22													
					ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	40.0kW以下	●	S-002265		3.28	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については3℃、ブライン 出口温度については0℃とする。				
						40.0kW超80.0kW以下	●	S-002266		2.65													
						80.0kW超118.0kW以下	-	S-002241		-													
						118.0kW超180.0kW以下	-	S-002261		-													
						180.0kW超500.0kW以下	-	S-002247		-													
						500.0kW超1000.0kW以下	-	S-002288		-													
						1000.0kW超1500.0kW以下	-	S-002269		-													
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	○	S-002254		2.24	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については-3℃、ブライン 出口温度については-7℃とする。				
						40.0kW超80.0kW以下	○	S-002252		2.61													
						80.0kW超118.0kW以下	○	S-002251		2.54													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)				クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明		
									S-003192	2.54												
						冷却能力	60.0kW以下	-	S-002390	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。			
							60.0kW超90.0kW以下	•	S-002415	2.84												
							90.0kW超120.0kW以下	•	S-002397	2.52												
							120.0kW超160.0kW以下	○	S-002388	2.64												
							160.0kW超	○	S-002423	2.79												
						冷却能力	60.0kW以下	-	S-002408	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。			
							60.0kW超90.0kW以下	○	S-002317	2.9												
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-002386	2.75												
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-002416	-												
							160.0kW超	-	S-002421	-												
						冷却能力	60.0kW以下	•	S-002425	2.5	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については-2℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。			
							60.0kW超90.0kW以下	○	S-002365	2.71												
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-002428	2.72												
							120.0kW超160.0kW以下	○	S-002359	2.63												
							160.0kW超	○	S-002426	2.72												
						冷却能力	60.0kW以下	•	S-002395	2.45	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については3℃、ブライン 出口温度については0℃とする。			
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-002418	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明		
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-002368	-													
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-002407	-													
						160.0kW超	-	S-002413	-													
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度+7℃	冷却能力	60.0kW以下	•	S-002361	2.39	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については+7℃とする。			
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-002398	2.24													
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-002346	2.09													
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-002356	-													
						160.0kW超	-	S-002364	-													
					寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以下	-	S-002354	-	-	期間成績係数(IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠			
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-002352	-													
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-002349	-													
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-002369	-													
						160.0kW超	-	S-002362	-													
						60.0kW以下	-	S-002450	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-002318	-													
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-002319	-													
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-002420	2.89													
						160.0kW超	-	S-002392	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評 価 方 法 の タ イ プ	計 算 方 法		計 算 方 法		試 験 条 件	
														単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称
					出口温度60℃ 寒冷地仕様	加熱能力	60.0kW以下	-	S-003193	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-003194	-	-								
							90.0kW超120.0kW以下	○	S-003195	2.02									
							120.0kW超160.0kW以下	○	S-003196	2.04									
							160.0kW超	○	S-003197	2									
					寒冷地仕様、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-002351	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-002363	-	-								
							90.0kW超120.0kW以下	-	S-002366	-	-								
							120.0kW超160.0kW以下	-	S-002367	-	-								
							160.0kW超	-	S-002393	-	-								
							60.0kW以下	-	S-002320	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠
							60.0kW超90.0kW以下	-	S-002347	-	-								
							90.0kW超120.0kW以下	-	S-002410	-	-								
							120.0kW超160.0kW以下	●	S-002400	3.79									
							160.0kW超	-	S-002357	-	-								
					散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-002490	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠
							60.0kW超90.0kW以下	●	S-002758	6.6									
							90.0kW超120.0kW以下	●	S-002491	6.4									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	測 定 名 称	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件		
															標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準する規格	規格の名称	計算式
						冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-002433	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JRA4066:201 4	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:201 4	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。	
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-002429	6									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-002445	5.9									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-002451	5.7									
								160.0kW超	○	S-002439	5.6									
								60.0kW以下	○	S-002435	4	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。	
								60.0kW超90.0kW以下	○	S-002449	2.77									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-002436	3.86									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-002448	3.5									
								160.0kW超	○	S-002456	5.6									
						冷房専用	冷却能力	60.0kW以下	-	S-002468	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	
								60.0kW超90.0kW以下	○	S-002470	5.7									
								90.0kW超120.0kW以下	○	S-002474	5.6									
								120.0kW超160.0kW以下	○	S-002476	5.4									
								160.0kW超	○	S-002471	5.3									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評 価 方 法 の タイプ	標準規格		計算方法		標準規格		試験条件	
														単 位	名 称	計 算 式	単 位	名 称	説 明		
						60.0kW以下	● S-002473	3.67	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				
						60.0kW超90.0kW以下	● S-002477	4.07													
						90.0kW超120.0kW以下	● S-002478	3.77													
						120.0kW超160.0kW以下	● S-002479	3.56													
						160.0kW超	○ S-002465	5.3													
					冷房専用、ブライン仕様、 ブライン入口温度-2℃、ブ ライン出口温度-5℃	冷却能力	○ S-002303	2.78	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については-2℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。				
						60.0kW以下	○ S-002304	2.71													
						60.0kW超90.0kW以下	○ S-002300	2.72													
						90.0kW超120.0kW以下	○ S-002300	2.72													
						120.0kW超160.0kW以下	- S-002297	-													
						160.0kW超	- S-002295	-													
					冷房専用、散水式	冷却能力	- S-002512	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				
						60.0kW以下	○ S-002514	6.6													
						60.0kW超90.0kW以下	○ S-002509	6.4													
						90.0kW超120.0kW以下	○ S-002509	6.4													
						120.0kW超160.0kW以下	○ S-002768	6.1													
						160.0kW超	○ S-002504	6													
						60.0kW以下	○ S-002763	4.86	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				
						60.0kW超90.0kW以下	● S-002518	6.2													
						90.0kW超120.0kW以下	● S-002765	5.46													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称
						60.0kW以下	○	S-002459	5.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。	
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-002458	6.39										
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-002457	5.65										
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-002462	5.04										
						160.0kW超	○	S-002461	6.3										
L-000344	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)・熱 源精機	水蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	定格日量冷却能力	-	S-002524	-	-	日量成績係 数	標準規格 による評 価	JRA4044:200 5	水蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:200 5	水蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠	
						1000kWh以下	-	S-002524	-										
						1000kWh超2000kWh以下	-	S-002527	-										
						2000kWh超3000kWh以下	-	S-002532	-										
						3000kWh超4000kWh以下	-	S-002526	-										
						4000kWh超5000kWh以下	-	S-002530	-										
						5000kWh超	-	S-002529	-										
L-000346	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(気 化式・中 央方式)	間接気化式冷却 器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気が常温水を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のみのため、省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	冷却能力	●	S-002544	34.4 *	-	成績係数 (COP)	シミュ レーション による評 価	JRA4066:201 4	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:201 4及び JISB8615-2: 2015	ウォータチ リングユ ニット及び エアコン ディショナ 第2:ダクト 接続形エア コンディ ショナと空 気対空気 ヒートポン プ定格性能 及び運転性 能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠	
						14.0kW以下	●	S-002544	34.4 *										
						14.0kW超16.0kW以下	●	S-002546	34.5 *										
						16.0kW超22.4kW以下	●	S-002547	34.8 *										
						22.4kW超28.0kW以下	●	S-002541	34.9 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明		
						28.0kW超33.5kW以下	●	S-002542	34.9 *													
						33.5kW超40.0kW以下	●	S-002540	35 *													
						40.0kW超60.0kW以下	●	S-002538	35.2 *													
						60.0kW超80.0kW以下	●	S-002551	35 *													
						80.0kW超100.0kW以下	●	S-002548	35.1 *													
						100.0kW超120.0kW以下	●	S-002550	35.2 *													
						120.0kW超140.0kW以下	○	S-003183	35.1 *													
						140.0kW超160.0kW以下	○	S-003184	35.1 *													
						160.0kW超200.0kW以下	○	S-003185	35.1 *													
						200.0kW超240.0kW以下	○	S-003186	35.1 *													
						240.0kW超280.0kW以下	○	S-003187	35.1 *													
L-000347	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷温水機 (二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの。	蓄電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-002556	1.48 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠		
								80RT超1000RT以下	●	S-002553	1.48 *											
								1000RT超	○	S-002554	1.41 *											
						冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-002563	1.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠		
								80RT超1000RT以下	●	S-002564	1.48											
								1000RT超	○	S-002558	1.46											
L-000348	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷温水機 (三重効用)/廢 熱投入型吸収冷 温水機(三重効 用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	-	-	●	S-002565	1.74	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件						
												単位	名称	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	説明				
L-000349	産業・業 務(業種 共通)	空調/産 業用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	一重二重併用形 吸収冷凍水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m ³ /h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-002567	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009または JISB8622:2016に準拠				
						80RT超1000RT以下	-	S-002568	1.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						1000RT超	-	S-002572	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000350	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	木質ペレット直 焚き吸収冷凍水 機(二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温・低温再生器を有するもの内、加熱源の燃料に木質ペ レットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に 使用される。	冷水入口温度12℃、冷水出 口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-002579	1.04	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JIS B 8622 : 2009	吸収式冷凍 機	JIS B 8622 : 2009に準拠、ただし、成績係数は冷 凍能力を加熱源消費熱量で除したものとし、消費 電力は除外することとする。	JIS B 8622 : 2009	吸収式冷凍 機	JIS B 8622 : 2009に準拠				
						80RT超1000RT以下	-	S-002577	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						1000RT超	-	S-002576	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000354	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(地 中熱利 用・中央 方式)	パッシブ地中熱 利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温 水をスバイラル状に過水できるパイプを地下2mに埋設し送風をす ること、空気と地中熱、水の熱と熱交換を行い温風、冷風を送 風する機能。一般的には通風部のみあるケルチューブやアース チューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステム と比べて、水が持つ熱との熱交換が加わったことで、熱交換量が 飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	冷房能力	6.4kW	-	S-002580	-	-	-	-	成績係数 (COP)	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、 吹き出し温度、給水温度、戻り水温度について は、以下の通り設定することを条件とする。入気 温度35℃、吹き出し温度27℃、給水温度:15℃、 戻り水温度:15℃			
						8.2kW	-	S-002582	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						10.9kW	●	S-002583	15.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						12.8kW	-	S-002585	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						21.9kW	-	S-002589	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						29.2kW	-	S-002588	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36.5kW	-	S-002586	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件			
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明		
L-000355	産業・業 務(業種 共通)	空調/産 業用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 着式・中 央方式)	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を 促し、その酸化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	-	○	S-002592	15.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P; COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W] 注:上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ次 のとおり設定することを条件とする。冷水出口温 度:15℃、冷却水入口温度:27℃、熱源入口温 度:58℃ 注:上記のCOPは電力COPである		
						熱源入口温度68℃	-	-	○	S-002591	26 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P; COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W] 注:上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ以 下のとおり設定することを条件とする。冷水出口 温度:15℃、冷却水入口温度:27℃、熱源入口温 度:68℃ 注:上記のCOPは電力COPである		
L-000356	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産 業用プロセ ス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒート ポンプ(空気熱源・ 循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度16℃、湿球 温度12℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	●	S-002596	3.09 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P; COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次 のとおり設定することを条件とする。温水出口温 度:65℃以上70℃以下、乾球温度:16℃、湿球温 度:12℃、温水出入口温度差:5℃		
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差10℃	-	-	●	S-002595	3.63 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P; COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおり設定することを条件とする。温水出口 温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:25℃、湿球温 度:21℃、温水出入口温度差:10℃		
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	○	S-002594	3.29 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P; COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおり設定することを条件とする。温水出口 温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:25℃、湿球温 度:21℃、温水出入口温度差:5℃		
L-000357	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産 業用プロセ ス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒート ポンプ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	-	-	-	●	S-002598	4.4 *	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に 準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に 準拠		
L-000358	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒート ポンプ(水熱源・循 環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式 の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱す る熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃、熱源水出口 温度7℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-002775	3.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P; COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度:65℃、熱源水入口温度:17℃ 熱源水出口温度:7℃、温水出入口温度差:10℃		
						270kW超350kW以下	-	S-002639	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						350kW超540kW以下	●	S-002635	3.2 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						540kW超	-	S-002776	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-002610	4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度:65℃、熱源水入口温度:17℃ 以上30℃以下、熱源水出口温度:7℃以上20℃以下 温水出入口温度差:10℃				
270kW超350kW以下	-	S-002618	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
350kW超540kW以下	●	S-002612	4.4 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
540kW超	-	S-002622	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称	基準する規格	規格の名称	基準する規格	規格の名称
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	• S-002608	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を次のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水 出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-002646	-									
								350kW超540kW以下	• S-002649	3.7 *									
								540kW超	- S-002642	-									
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上30℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	• S-002653	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 30℃、熱源水出口温度：25℃以上30℃以下、温水出 入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-002659	-									
								350kW超540kW以下	- S-002655	-									
								540kW超	• S-002651	4.8 *									
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度38℃以上40℃以 下、熱源水出口温度35℃、 温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	• S-002663	5.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：38℃ 以上40℃以下、熱源水出口温度：35℃、温水出 入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	- S-002662	-									
								350kW超540kW以下	- S-002661	-									
								540kW超	- S-002660	-									
						温水出口温度65℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出 口温度30℃、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下	• S-002615	4.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃、温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	- S-002620	-									
								350kW超540kW以下	- S-002613	-									
								540kW超	• S-002664	5.8 *									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
														単位	名称	基準する規格	規格の名称	基準する規格	規格の名称
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	● S-002619 - S-002669 - S-002672 - S-002673	3.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口 温度差：5℃
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	● S-002666 - S-002668 - S-002683 - S-002678	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上27℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	● S-002674 - S-002676 - S-002670 - S-002671	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口 温度差：5℃
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度35℃以上40℃以 下、熱源水出口温度30℃、 温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下 270kW超350kW以下 350kW超540kW以下 540kW超	● S-002682 ● S-002599 - S-002605 - S-002607	3.8 * 4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃ 以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口 温度差：10℃

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		
												単位	名称	標準条件 による評 価	標準条件 による評 価	計算式	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	-	S-002677	4.44 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	-	S-002675	-									
								350kW超540kW以下	-	S-002665	-									
								540kW超	-	S-002667	-									
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度17℃、熱源水出口 温度7℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	-	S-002771	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	•	S-002774	2.75 *									
								350kW超540kW以下	-	S-002636	-									
								540kW超	-	S-002640	-									
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	-	S-002604	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	•	S-002602	3.1 *									
								350kW超540kW以下	-	S-002601	-									
								540kW超	-	S-002627	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説明
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	-	S-002633	3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。 温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	-	S-002628	-									
								350kW超540kW以下	•	S-002773	3.5 *									
								540kW超	-	S-002772	-									
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	-	S-002632	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。 温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	-	S-002630	-									
								350kW超540kW以下	-	S-002624	-									
								540kW超	-	S-002623	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規格		計算方法		標準する規格		試験条件			
														規格の名称	規格の名称	計算式	規格の名称	規格の名称					
L-000359	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	●	S-002686	4.3 *	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	-	-	-	-	JRA4060:2014に準拠		
						-	-	-	○	S-002685	10.2 *	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:70℃ 熱源水入口温度:50℃ 熱源水出口温度:38.6℃ 温水出入口温度差:50℃	
L-000360	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	○	S-002688	2.9 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾燥温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃ 乾燥温度:25℃ 湿球温度:21℃ 温水出入口温度差:5℃	
						-	-	-	●	S-002691	3.6 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:65℃ 熱源水入口温度:20℃以下、熱源水出口温度:15℃以下、温水出入口温度差:5℃	
						-	-	-	○	S-002689	3.05 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:75℃ 熱源水入口温度:17℃ 熱源水出口温度:7℃、温水出入口温度差:10℃	
L-000361	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	○	S-002694	4.1 *	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠			
						-	-	-	●	S-002692	3.9 *	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠			
L-000290	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源(ヒートポンプ)	熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる装置	-	-	-	○	S-003202	3.5	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、外気温度(乾燥温度/湿球温度)を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度:20℃、熱風供給温度:80℃、外気温度(乾燥温度/湿球温度)25℃/21℃とする。	
L-000362	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	-	-	-	●	S-002697	3.7	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。空気入口温度:20℃、熱風供給温度:100℃、熱源水入口温度:30℃、熱源水出口温度:25℃	
						-	-	-	-	-	○	S-002695	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度:70℃ 熱源水入口温度:50℃ 熱源水出口温度:38.6℃ 温水出入口温度差:50℃
L-000363	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、蒸気を発生させる熱源装置。	-	-	-	●	S-002701	3.53 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力:0.1MPaG、熱源水入口温度:65℃、熱源水出口温度:60℃	
						-	-	-	-	-	○	S-002702	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力:0.1MPaG 熱源水入口温度:80℃ 熱源水出口温度:70℃
						-	-	-	○	S-002699	2.46 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力:0.6MPaG 熱源水入口温度:70℃ 熱源水出口温度:65℃	
L-000364	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	-	-	-	●	S-002706	0.067 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を次のとおり設定することを条件とする。吐出圧力:0.1MPaG以上0.2MPaG以下、吐出蒸気量:1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水温度:80℃	
						-	-	-	●	S-002708	0.064 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力:0.1MPaG以上0.3MPaG以下 吐出蒸気量:3.0ton/h以上 給水温度:80℃	
						-	-	-	●	S-002704	0.085 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。吐出圧力:0.4MPaG以上 吐出蒸気量:1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度:80℃	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法				試験条件			
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	説明	
L-000291	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ペレ ットストー ブ)	密閉式ペレ ットストー ブ	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つこ とができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるた め、CO2の排出削減が可能。	-	-	-	○ S-003158	77	%	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	$\eta = 100 - (q_a + q_b + q_r)$ 、 η : 熱効率[%]、 q_a : 試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Q_a) の比、 q_b : 熱による熱損失の割合 (燃焼基準) [%]、 q_r : 試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の 化学的熱損失 (Q_r)、 q_r : の潜熱による熱損失の割 合 (燃焼基準) [%]、 q_r : 試験燃料の熱容量当たり 底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物 質による熱損失 (Q_r) の残渣物中の可燃性構成 物質による損失の割合 (燃焼基準) [%]※発熱量 は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。		
L-000366	産業・業 務(業種 共通)	給湯	給湯器 (ヒー トポン プ)	ヒートポンプ給 湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含 むもの。	-	加熱能力	10kW以下 10kW超20kW以下 20kW超30kW以下 30kW超40kW以下 40kW超50kW以下 50kW超	● S-002718 ● S-002719 ● S-002713 ● S-002711 ○ S-002710 ○ S-002714	4.2 4.2 3.9 3.8 3.8 3.8	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠		
						寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下 10kW超20kW以下 20kW超30kW以下 30kW超40kW以下 40kW超50kW以下 50kW超	● S-002721 ● S-002722 ● S-002716 ○ S-002725 ○ S-002724 ○ S-002727	3.5 3.5 3.5 3.4 3.3 3.3	-	寒冷地年間 標準貯湯加 熱エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠		
L-000368	産業・業 務(業種 共通)	給湯	給湯器 (ガス 式)	潜熱回収型給湯 器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機 器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収す る。	-	-	-	● S-002729	95	%	熱効率	標準規格 による評 価	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説 明			
L-000369	産業・業 務（業種 共通）	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱 媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用す る。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱 媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	出力	1000kW未満 1000kW以上2000kW未満 2000kW以上	• S-002732 • S-002730 • S-002733	105.5 105.4 89	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、または JISB8418:200 0	随用ボイ ラー熱動 方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、または JISB8418:200 0	随用ボイ ラー熱動 方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠				
L-000370	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫流 ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅 広い業種で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	• S-002741	97	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱動 方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流 ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準 値」に準拠				
							1500kg/h以上3000kg/h未満	• S-002738	98													
							3000kg/h以上	• S-002736	99													
L-000371	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(伊 南煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用 途で使用される。	蒸発量	3000kg/h未満	• S-002739	102	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱動 方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流 ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準 値」に準拠				
							3000kg/h以上	○ S-002735	102													
L-000371	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(伊 南煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用 途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	• S-002744	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 方式	JISB8222-1993に準拠				
							1500kg/h以上3000kg/h未満	• S-002748	92													
							3000kg/h以上7200kg/h未満	• S-002745	96													
							7200kg/h以上19200kg/h未満	• S-002746	96													
						19200kg/h以上	• S-002742	92														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	認定 対象			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説 明	
L-000372	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水管 ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった 産業用や、地域暖房用で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	○	S-002753	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 定方式	JISB8222-1993に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h未満	-	S-002750	-									
								3000kg/h以上7200kg/h未満	●	S-002749	96									
								7200kg/h以上19200kg/h未満	○	S-002752	94									
								19200kg/h以上	○	S-002751	94									
L-000288	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	水素ボイラ(貫 流ボイラ)	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気 を他に供給する装置。水素は燃焼時にのみしか生成せず、CO2 を排出しない事から、炭化水素系燃料からの代替により、大幅に CO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副産水素の工 場が対象となっているが、将来的には水素価格の低下により広 く様々な業界で利用できると考えられる。	-	蒸発量	1500kg/h未満	-	S-003199	-	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基	随用ボイ ラー熱動 定方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h	○	S-003200	95									
								3000kg/h以上	-	S-003201	-									
L-000373	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が 得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度 にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化 学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満	●	S-002795	92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱動 定方式	JISB8222-1993に準拠
								1000kW以上2000kW未満	○	S-002794	92									
								2000kW以上	○	S-002792	92									
L-000374	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用ブ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスエンジン コージェネレ ーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱 を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する発電供給シ ステム。廃熱で発生する蒸気や温湯は、製造業のプロセス利用 や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下	●	S-002806	85.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8121:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
								5kW超10kW以下	●	S-002800	86.5									
								10kW超25kW以下	●	S-002823	85.5									
								25kW超35kW以下	●	S-002832	88									
								35kW超250kW以下	○	S-002833	90.2									
								250kW超500kW以下	○	S-002824	83.8									
								500kW超750kW以下	○	S-002831	87.8									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明			
						750kW超1000kW以下	○	S-002827	87.8														
						3000kW超	●	S-002826	87														
						5kW以下	○	S-002805	29	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						5kW超10kW以下	○	S-002799	31.5														
						10kW超25kW以下	○	S-002798	33.5														
						25kW超35kW以下	○	S-002804	33.5														
						35kW超250kW以下	●	S-002802	35.5														
						250kW超500kW以下	●	S-002803	41.6														
						500kW超750kW以下	○	S-002807	41.9														
						750kW超1000kW以下	●	S-002808	42.5														
						3000kW超	●	S-002797	49.5														
					50Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	○	S-002856	87	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-002821	77.5														
						1000kW超2000kW以下	○	S-002830	43.7	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-002858	43.4														
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	○	S-002828	74.3	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-002829	77.9														
						1000kW超2000kW以下	●	S-002825	45.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明			
						2000kW超3000kW以下	○	S-002822	47.8														
					60Hz	発電出力	5kW以下	●	S-002844	85.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						5kW超10kW以下	●	S-002840	86.5														
						10kW超25kW以下	●	S-002834	85.5														
						25kW超35kW以下	●	S-002837	88														
						35kW超250kW以下	○	S-002839	90.7														
						250kW超500kW以下	○	S-002854	82.1														
						500kW超750kW以下	○	S-002842	87.8														
						750kW超1000kW以下	○	S-002819	87.8														
						3000kW超	●	S-002813	87														
						5kW以下	○	S-002851	29	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						5kW超10kW以下	○	S-002845	31.5														
						10kW超25kW以下	○	S-002855	33.5														
						25kW超35kW以下	○	S-002849	33.5														
						35kW超250kW以下	○	S-002836	37														
						250kW超500kW以下	●	S-002846	42														
						500kW超750kW以下	○	S-002852	41.3														
						750kW超1000kW以下	○	S-002848	42.5														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明				
						3000kW超	•	S-002841	49.5															
					60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-002814	86.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	-	S-002812	-															
						1000kW超2000kW以下	○	S-002820	43.3	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	-	S-002809	-															
					60Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-002810	77	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	○	S-002815	77.9															
						1000kW超2000kW以下	•	S-002811	45.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	○	S-002818	47.8															
L-000375	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスタービン コージェネレ ーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	○	S-002884	83	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
								1000kW超2000kW以下	•	S-002861	84													
								2000kW超3000kW以下	•	S-002887	81.8													
								3000kW超5000kW以下	-	S-002888	-													
								5000kW超7000kW以下	-	S-002871	-													
								7000kW超10000kW以下	•	S-002873	85.2													
								10000kW超40000kW以下	○	S-002860	85.9													
								40000kW超	○	S-002866	84													

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格
						1000kW以下	○	S-002886	18.6	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
						1000kW超2000kW以下	○	S-002889	27.2									
						2000kW超3000kW以下	○	S-002874	28.4									
						3000kW超5000kW以下	○	S-002865	29.9									
						5000kW超7000kW以下	○	S-002876	39.3									
						7000kW超10000kW以下	○	S-002877	34.3									
						10000kW超40000kW以下	●	S-002862	38.8									
						40000kW超	○	S-002859	40.9									
					60Hz	発電出力		S-002892	83	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
						1000kW超2000kW以下	●	S-002893	84									
						2000kW超3000kW以下	●	S-002898	81.8									
						3000kW超5000kW以下	-	S-002890	-									
						5000kW超7000kW以下	-	S-002899	-									
						7000kW超10000kW以下	●	S-002901	85.2									
						10000kW超40000kW以下	○	S-002894	86.8									
						40000kW超	○	S-002900	84									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ		計算方法				試験条件			
													単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称	標準規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件
												%	発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠		
L-000376	産業・業務(業種共通)	空調/給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	燃料電池コージェネレーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz 水素	燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	S-003205	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通期	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通期	JISC8801:2009に準拠	
									75kW超150kW以下	o	S-003206	93										
									150kW超	-	S-003207	-										
									75kW以下	-	S-003208	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通期	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通期	JISC8801:2009に準拠	
									75kW超150kW以下	o	S-003209	48										
									150kW超	-	S-003210	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	試験する規格		試験方法		試験する規格		試験条件
												単 位	名 称		規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	
				50Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	-	S-003211	-			% 総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠		
						75kW超150kW以下	○	S-003212	91												
						150kW超	-	S-003213	-												
						75kW以下	-	S-003214	-			% 発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠		
						75kW超150kW以下	○	S-003215	42												
						150kW超	-	S-003216	-												
				50Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	S-003217	-			% 総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠		
						75kW超150kW以下	○	S-003218	84												
						150kW超	-	S-003219	-												
						75kW以下	-	S-003220	-			% 発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠		
						75kW超150kW以下	○	S-003221	40												
						150kW超	-	S-003222	-												
				60Hz 燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	S-003223	-			% 総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム適用	JISC8801:2009に準拠		
						75kW超150kW以下	○	S-003224	93												
						150kW超	-	S-003225	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	認証 対象			測定単位		評価方法の タイプ	試験する規格		試験方法		試験する規格		試験条件	
												単 位	名 称		規格の名称	規格の名称	計算式	規格の名称	規格の名称	説 明		
						75kW以下	-	S-003226	-													
						75kW超150kW以下	○	S-003227	48													
						150kW超	-	S-003228	-													
					60Hz 燃料ガスの種類：都 市ガス	発電出力						%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 期	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 期	JISC8801:2009に準拠		
						75kW以下	-	S-003229	-													
						75kW超150kW以下	○	S-003230	91													
						150kW超	-	S-003231	-													
						75kW以下	-	S-003232	-			%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 期	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 期	JISC8801:2009に準拠		
						75kW超150kW以下	○	S-003233	42													
						150kW超	-	S-003234	-													
					60Hz 燃料ガスの種類：バ イオガス	発電出力						%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 期	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 期	JISC8801:2009に準拠		
						75kW以下	-	S-003235	-													
						75kW超150kW以下	○	S-003236	84													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単 位	名 称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明				
						150kW超	-	S-003237	-															
						75kW以下	-	S-003238	-	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠						
						75kW超150kW以下	o	S-003239	40															
						150kW超	-	S-003240	-															
L-000379	産業・業 務(業種 共通)	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵 機器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用 される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高 い断熱性能が求められる。	冷凍庫：横型	容量	250L以下	-	S-002910	280	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
								250L超350L以下	-	S-002907	320													
								350L超450L以下	-	S-002922	400													
								450L超	-	S-002913	470													
						冷蔵庫：縦型	容積	700L以下	-	S-002908	340	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
								700L超1200L以下	-	S-002906	420													
								1200L超	-	S-002909	600													
						冷凍庫：横型	容量	250L以下	-	S-002927	810	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
								250L超350L以下	-	S-002926	1010													
								350L超	-	S-002924	1130													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	説明	
						冷凍庫：縦型	容量	700L以下	-	S-002915	1030	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								700L超900L以下	-	S-002912	1550									
								900L超1200L以下	-	S-002923	2020									
								1200L超1500L以下	-	S-002928	2440									
								1500L超	-	S-002925	3130									
						冷凍冷蔵庫：横型(冷凍室1 室)	容量	250L以下	-	S-002919	1070	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	-	S-002917	1190									
								350L超	-	S-002916	1270									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1 室)	容積	1200L以下	-	S-002914	1080	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								1200L超	-	S-002911	1430									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2 室)	容量	900L以下	-	S-002918	1490	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								900L超1200L以下	-	S-002920	1660									
								1200L超	-	S-002921	1810									
L-000380	産業・業 務（業種 共通）	動力他	冷凍冷蔵 機器	空気冷凍方式冷 凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50～100℃の空 気を冷やす冷凍機。	庫容量（有効容積） 1300m3規模	-	-	-	S-002938	0.42	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃
						庫容量（有効容積） 2600m3規模	-	-	-	S-002937	0.4	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件	
												単位	名称	標準条件 による評 価	標準条件 による評 価	計算式	標準する規格	規格の名称	標準する規格
L-000381	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷媒冷凍機 (アンモニア /CO2二次冷媒シ ステム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒(マイナス5~マイ ナス40℃程度)とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度: 32℃	冷凍能力	100kW以下	○	S-002945	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定すること を条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以下、冷却 水入り口温度:32℃
						100kW超 200kW以下	-	S-002939	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						200kW超	●	S-002941	3.41 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						庫内温度:-20℃超10℃以下、CO2温度:-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度: 30℃	冷凍能力	50kW以下	○	S-003203	2.7 *	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ以下のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-17℃超-5℃以 下、冷却水入り口温度:30℃
						50kW超	-	S-003204	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000301	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	自然冷媒冷凍冷 蔵コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対 して、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度 -10℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	○	S-003241	2.02	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠
						16.0kW超24.0kW以下	-	S-003242	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						24.0kW超36.0kW以下	-	S-003243	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						36.0kW超	-	S-003244	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格			計算方法			試験条件		
														単位	名称	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価
													JRA4019: 2014	コンデン シ ン グ ユ ニ ツ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]		JRA4019: 2014	コンデン シ ン グ ユ ニ ツ ト	JRA4019: 2014に準拠			
													JRA4019: 2014	コンデン シ ン グ ユ ニ ツ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]		JRA4019: 2014	コンデン シ ン グ ユ ニ ツ ト	JRA4019: 2014に準拠			
													JRA4019: 2014	コンデン シ ン グ ユ ニ ツ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]		JRA4019: 2014	コンデン シ ン グ ユ ニ ツ ト	JRA4019: 2014に準拠			
L-000382	産業・業 務（業種 共通）	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。																	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評 価 方 法 の 種 類	標準規格 による評 価	規格の名称	計 算 方 法		標準規格 による評 価	規格の名称	試 験 条 件	
																算 式	算 式			説 明	説 明
										S-003154		lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-003155		lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-003156	157.2	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-003157	187.6	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-002959	172.8	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-002958	164	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
										S-002957	194	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
L-000383	産業・業務（業種共通）	動力他	プリンタ/複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の速い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、清掃の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED（発光ダイオード）を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	-	S-002961	-	kWh	概念的1週間（稼働とスリープオフが繰り返される5日間＋スリープオフ状態の2日間）の消費電力量（TEC消費電力量）	標準規格による評価	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件	
						カラー印刷機能有	-	-	-	S-002960	-	kWh	概念的1週間（稼働とスリープオフが繰り返される5日間＋スリープオフ状態の2日間）の消費電力量（TEC消費電力量）	標準規格による評価	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評価方法の タイプ	計算法		試験条件									
														規 格 の 名 称	計 算 式	規 格 の 名 称	説 明								
L-000384	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	-	S-002964	-	KWH	概念的1週間 (稼働とス リープ/オフ が繰り返さ れる5日間十 スリープ/オ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評 価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギー スタープログラ ムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギー スタープログラ ムで定める試験条 件					
						カラー複写機能有	-	-	-	S-002963	-	KWH	概念的1週間 (稼働とス リープ/オフ が繰り返さ れる5日間十 スリープ/オ フ状態の2日 間)の消費 電力量 (TEC消費 電力量)	標準規格 による評 価	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギー スタープログラ ムで定める計算式	-	国際エネル ギースター プログラム	国際エネルギー スタープログラ ムで定める試験条 件					
L-000385	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転子を得るモータ。産業機械、工作機械等に幅広く用いられる。鉄心、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	○	S-003028	85	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034-2 1:2011または JIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1 部、単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2 1:2011または JIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2-1 部、単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。					
						0.75kW超1.1kW以下	○	S-003036	85.5																
						1.1kW超1.5kW以下	●	S-003039	89.4																
						1.5kW超2.2kW以下	●	S-003027	89.5																
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-003037	-																
						3.0kW超3.7kW以下	●	S-003025	89.9																
						3.7kW超4.0kW以下	-	S-003030	-																
						4.0kW超5.5kW以下	●	S-003041	91.2																
5.5kW超7.5kW以下	●	S-003048	91.5																						
7.5kW超11.0kW以下	●	S-003045	91.9																						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
						11.0kW超15.0kW以下				S-003047	92.2													
						15.0kW超18.5kW以下				S-003051	93.1													
						18.5kW超22.0kW以下				S-003057	93.8													
						22.0kW超30.0kW以下				S-003054	94													
						30.0kW超37.0kW以下				S-003050	94.3													
						37.0kW超				S-003042	96.2													
					50Hz、200V、極数4	容量	0.75kW以下			S-003043	84.8	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部:単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トップランナーモータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部:単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トップランナーモータ	JIS C 4034-2:1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW超1.1kW以下			-	S-003052	-													
						1.1kW超1.5kW以下				S-003055	86.9													
						1.5kW超2.2kW以下				S-003062	88.6													
						2.2kW超3.0kW以下			-	S-002967	-													
						3.0kW超3.7kW以下				S-002972	89.4													
						3.7kW超4.0kW以下			-	S-002969	-													
						4.0kW超5.5kW以下				S-002973	91.9													
						5.5kW超7.5kW以下				S-002966	91.7													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単位	名称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説明				
							5.5kW超7.5kW以下	• S-003110		92.4														
							7.5kW超11.0kW以下	• S-003106		93.2														
							11.0kW超15.0kW以下	• S-003111		93.4														
							15.0kW超18.5kW以下	• S-003107		93.7														
							18.5kW超22.0kW以下	• S-003113		94.3														
							22.0kW超30.0kW以下	• S-003096		94.8														
							30.0kW超37.0kW以下	• S-003104		94.9														
							37.0kW超	○ S-003100		95.3														
L-000386	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	永久磁石同期 モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを 含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられ る。	容量	0.75kW以下	• S-003149		92.3	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISC4034-2- 1:2011	回転電機機 構-第2-1 部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2- 1:2011	回転電機機 構-第2-1 部:単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠					
							0.75kW超1.5kW以下	• S-003143		90.4														
							1.5kW超2.2kW以下	• S-003142		92.5														
							2.2kW超3.7kW以下	• S-003148		93.5														
							3.7kW超5.5kW以下	• S-003141		94.3														
							5.5kW超7.5kW以下	• S-003146		94.8														
							7.5kW超11kW以下	• S-003151		94.3														
							11kW超15kW以下	• S-003147		95														
							15kW超18.5kW以下	• S-003144		94.9														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説 明			
						200kVA超300kVA以下	• S-003128	584															
						300kVA超500kVA以下	• S-003109	892															
						500kVA超750kVA以下	• S-003105	1520															
						750kVA超1000kVA以下	• S-003118	1965															
						1000kVA超1500kVA以下	• S-003086	2750															
						1500kVA超2000kVA以下	• S-003115	3700															
					油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	• S-003139	120	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠					
						20kVA超30kVA以下	• S-003125	133															
						30kVA超50kVA以下	• S-003136	192															
						50kVA超75kVA以下	• S-003095	220															
						75kVA超100kVA以下	• S-003092	268															
						100kVA超150kVA以下	• S-003084	366															
						150kVA超200kVA以下	• S-003098	440															
						200kVA超300kVA以下	• S-003135	549															
						300kVA超500kVA以下	• S-003089	820															
						500kVA超750kVA以下	• S-003122	1450															
						750kVA超1000kVA以下	• S-003112	1890															
						1000kVA超1500kVA以下	• S-003134	2600															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件	
												単 位	名 称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称
							10kVA超20kVA以下	•	S-003072	68									
							20kVA超30kVA以下	•	S-003069	95									
							30kVA超50kVA以下	•	S-003063	145									
							50kVA超75kVA以下	•	S-003066	165									
							75kVA超100kVA以下	•	S-003053	207									
							100kVA超150kVA以下	•	S-003046	286									
							150kVA超200kVA以下	•	S-003056	354									
							200kVA超300kVA以下	•	S-003059	466									
							300kVA超500kVA以下	•	S-003049	775									
L-000388	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低 損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する 工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ 樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、 50Hz	定格容量	○	S-002978	167	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠
							20kVA以下	○	S-002986	201									
							20kVA超30kVA以下	○	S-003001	311									
							30kVA超50kVA以下	○	S-003001	311									
							50kVA超75kVA以下	•	S-002882	244									
							75kVA超100kVA以下	•	S-003005	309									
							100kVA超150kVA以下	•	S-002962	411									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単 位	名 称		基 準 する 規 格	規 格 の 名 称	計 算 式	基 準 する 規 格	規 格 の 名 称	説 明			
						300kVA超500kVA以下	•	S-002932	852														
						500kVA超750kVA以下	•	S-002883	1715														
						750kVA超1000kVA以下	•	S-002996	2028														
						1000kVA超1500kVA以下	•	S-002974	3200														
						1500kVA超2000kVA以下	•	S-003000	4125														
					モールド変圧器、単相、50Hz	定格容量		S-003015	78	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠					
						10kVA以下	○	S-003012	115														
						10kVA超20kVA以下	○	S-003017	160														
						20kVA超30kVA以下	○	S-003026	155														
						30kVA超50kVA以下	•	S-002934	181														
						50kVA超75kVA以下	•	S-002992	223														
						75kVA超100kVA以下	•	S-003007	289														
						100kVA超150kVA以下	•	S-002953	369														
						150kVA超200kVA以下	•	S-002999	496														
						200kVA超300kVA以下	•	S-002976	774														
						300kVA超500kVA以下	•																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	
						モールド変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	○	S-003004	73	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	
								10kVA超20kVA以下	○	S-002936	110									
								20kVA超30kVA以下	○	S-002947	150									
								30kVA超50kVA以下	●	S-002949	149									
								50kVA超75kVA以下	●	S-003003	183									
								75kVA超100kVA以下	●	S-002968	228									
								100kVA超150kVA以下	●	S-002875	285									
								150kVA超200kVA以下	●	S-002970	368									
								200kVA超300kVA以下	●	S-003002	491									
								300kVA超500kVA以下	●	S-002935	785									
L-000397	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ利 用機器 (圧縮 機)	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ(圧縮機)と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備(ボイラ、軟水装置、給水タンク)の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	容量、消費蒸気量	37kW、79kg/h	○	S-002867	6.95 *	%	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E:消費蒸気原単位 [-]、A:消費 蒸気量 [kW]、B:吐出空気量 [m3/min]、C: 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につ いては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度:15℃、 温水出口温度:50℃以上、また、消費蒸気量は メーカー指示値(性能表等)を参照する。	
							55kW、106kg/h	○	S-002863	1.93 *										
							75kW、178kg/h	○	S-002870	2.18 *										
						高圧蒸気仕様	容量、消費蒸気量	75kW、247kg/h	○	S-002869	0.6 *	%	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E:消費蒸気原単位 [-]、A:消費 蒸気量 [kW]、B:吐出空気量 [m3/min]、C: 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につ いては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度:15℃、 温水出口温度:50℃以上、また、消費蒸気量は メーカー指示値(性能表等)を参照する。
L-000398	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ利 用機器 (圧縮 機)	熱回収式ねじ 積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から軟水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	容量、熱回収量	37kW、25kW	○	S-002857	0.41 *	%	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	E=B/(A-C)、E:エネルギー原単位 [-]、A:軸 動力 [kW]、B:吐出空気量 [m3/min]、C:回 収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につ いては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度:15℃、 温水出口温度:50℃以上	
							75kW、60kW	○	S-002853	0.88 *										

L2-Tech リス№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		標準規程	規格の名称	試験条件	説 明	
														標準規程 による評 価	規格の名称 による評 価					
L-000411	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	Low-E複層ガラ ス (LE3+A12+FL3)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこと によって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	新築用	-	-	●	S-002850	1.4	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠
L-000412	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	三層Low-E複層 ガラス (LE3+Ar11+FL3 +Ar11+LE3)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜 をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ ス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行 うことができるようになる。	新築用	-	-	●	S-002847	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠
L-000413	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス (LE3+Ar9+FL3+ V0.2+LE3)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすること で、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことに よって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	新築用	-	-	●	S-002843	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998。た だし真空ガ ラスについ ては、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 (平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号)	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235 号)に準拠	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998。た だし真空ガ ラスについ ては、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 (平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号)	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235 号)に準拠
L-000414	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	アタッチメン ト付きLow-E複層 ガラス (LE3+Ar6+FL3 (アタッチメン ト付き))	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングす ることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメント により、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大 がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少 ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-002838	2	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠
L-000415	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	真空ガラス (LE3+ V0.2+FL3)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガ ラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を 行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-002835	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998。た だし真空ガ ラスについ ては、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 (平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号)	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235 号)に準拠	JISR3107: 1998及び JISR3209: 1998。た だし真空ガ ラスについ ては、複層ガ ラスの性能 の向上に関 する熱損失 防止建築材 料製造事業 者等の判断 の基準等 (平成26年 11月28日経 済産業省告 示第235号)	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等(平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号)	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空 ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関 する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基 準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235 号)に準拠
L-000416	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	現場施工型後付 けLow-E複層ガ ラス (FL6+A12+LE5)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラ スとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこと によって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよう になる。	リフォーム用	-	-	●	S-002817	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠
L-000417	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	薄型Low-E複層 ガラス (LE3+K4+FL3)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングす ることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメント を使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることが できる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を 行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-002816	1.9	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:19 98及び JISR3209:19 98	複ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠
L-000418	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	断熱材(押出法ホ リスチレン フォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・熔融し、大 気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加 工することで製造する。	-	-	-	●	S-002801	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評 価	JISA9511:20 06Rまたは JISA9521:20 14	発泡ブラス チック保温 材または建 築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:20 06Rまたは JISA9521:20 14	発泡ブラス チック保温 材または建 築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格		試験条件				
														単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	
L-000419	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	断熱材(グラス ウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し線状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	S-002793	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	-	S-002796	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
L-000266	産業・業 務（業種 共通）	断熱	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム（内貼断熱工法）にも向く。	-	-	-	S-003198	0.002	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	
L-000420	産業・業 務（業種 共通）	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の温った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の（または「最大115℃の」）温風熱として放出することで衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力（JIMS規格）	9kg以上	S-002791	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件 による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験（4回以上）によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理物、処理条件は以下の通りとする。＜処理物＞被洗濯物：JIMS規格による標準洗濯乾物量の100%バスタオル＜処理条件＞定格電圧：三相交流200V被洗濯物あたり水量：5.0L/kg以上 被洗濯物あたり洗濯時間：洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以上 被洗濯物あたり乾燥時間：4.0min/kg以下 回転速度：設定できる最速の設定（乾燥工程はメーカー推奨の回転速度）乾燥度（洗濯乾燥後）：97%以上 試験回数：4回以上	
L-000424	産業・業 務（業種 共通）	エネルギー マネジメント	エネルギー マネジメント	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	-	空気熱源仕様	-	S-002789	別紙「水1」の通り	%	エネルギー消費効率	具備機能 による評価	-	-	-	-	-	-	-
					水熱源仕様	-	S-002790	別紙「水2」の通り	%	エネルギー消費効率	具備機能 による評価	-	-	-	-	-	-	-		
L-000430	産業・業 務（業種 共通）	動力他	その他	サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電子計算機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32の2つに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002786	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格 による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件		
					I※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002784	0.13	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格 による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件			
					J※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002785	0.21	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格 による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件			
					K※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002788	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格 による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件			
					L※区分は省エネルギー法による	-	-	S-002787	0.265	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格 による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件			
L-000445	産業・業 務（業種 共通）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	油圧ショベル（内燃機関型）	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-002777	3.8	kg/標準作業	機費	標準規格 による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	
					0.36 m3以上0.47 m3未満	-	S-002780	6.2	-	-	-	-	-	-	-					
					0.47 m3以上0.55 m3未満	-	S-002782	6.6	-	-	-	-	-	-	-	-				
					0.55 m3以上0.70 m3未満	-	S-002778	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件	
												単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	試験条件	説 明
L-000452	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	油圧ショベル(電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満 0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-002737	-	50.8	kWh/標準 作業	電力消費量	標準規格 による評 価	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械- エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械- エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
L-000453	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	ブルドーザ(電動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低燃費化を実現している。	定格出力	19kW以上75kW未満 75kW以上170kW未満 170kW以上300kW未満	-	S-002728	-	-	gkWh	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH021: 2010	土工機械- 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021: 2010	土工機械- 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠
L-000479	産業(業 種固有)	食品品製造業	洗浄乾燥機	遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水乾燥機からなる。循環加熱ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥する設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	処理速度	75~150サイクル/h 151~225サイクル/h	●	S-002723	0.049	-	kWh/台	コンテナ1 台あたりの 電力消費量	標準条件 による評 価	-	-	P=(A+B+C+D+E+F+G+H)/I、P：コンテナ1台あたりの電力消費量[kWh]、A：主搬送コンベアの電力消費量[kWh]、B：搬入出コンベアの電力消費量[kWh]、C：洗浄ポンプの電力消費量[kWh]、D：リンスポンプの電力消費量[kWh]、E：洗浄槽殺菌の電力消費量[kWh]、F：遠心脱水機動力[kWh]、G：排気ファン[kWh]、H：ヒートポンプの電力消費量[kWh]、I：コンテナ総数[台]	-	-	<処理物>コンテナ：「食品クレート標準共有化ガイドライン」で規定されている食品クレート標準I型、またはII型湯・深用く処理条件>高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)(洗浄側) 温水出口温度：65℃以上70℃以下、乾燥温度：16℃、湿度温度：12℃、温水出入口温度差：5℃高温水ヒートポンプ(空気熱源—逆式)(リンス側)：JRA4060.2014に準拠 含水率(脱水後)：1%未満(ワーク質量に対する割合) 汚れ度(洗浄前/洗浄後) APT値：3000RLU以上/1000RLU未満
L-000480	産業(業 種固有)	化学工業	蒸留塔	内部熱交換最適化蒸留システム	濃縮部(高圧部)と回収部(低圧部)が物理的に分かれており、その間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上げることで内部温度を上昇させた後に、熱を自然循環によって回収部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった熱を自己再利用するため、リボイラーに供給する熱エネルギーを大幅に削減可能。	蒸留塔が高圧部(濃縮部)と低圧部(回収部)とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	○	S-002720	別紙「水準4」の通り	-	%	エネルギー消費効率	具備機能 による評 価	-	-	-	-	-	-
L-000481	産業(業 種固有)	繊維工業	乾燥機	熱回収式工業用繊維物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによって、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	1室3段 ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満 2000mmW以上2300mmW未満 2300mmW以上2500mmW以下	●	S-002696	3.13	-	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーション による評 価	-	-	Q=(qA+qB+qC+qD+qE)/m、Q:処理物の単位重量当たりの熱量[MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量[MJ/h]、qB:処理物の昇温熱量[MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量[MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量[MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量[MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量[kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な作業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分率(入口/出口)：70~75%/2%以下

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	測 定 名 称	評価方法の タイプ	基準する規格	規格の名称	計算方法		試験条件	
																	計算式	基準する規格	規格の名称	説 明
						1室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002693	3.06	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m ² 、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率(入口/出口)：70～75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002658	3.15												
						2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002687	3.33												
						2室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002698	2.85	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m ² 、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率(入口/出口)：70～75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002700	2.91												
						2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002680	3.01												
						2室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002690	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m ² 、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率(入口/出口)：70～75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002679	2.86												
						2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002707	2.94												
						3室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002717	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m ² 、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率(入口/出口)：70～75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002715	2.86												
						2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002709	2.94												
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002712	-	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>、素材： ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目 付：200g/m ² 、<処理条件>処理温度：140℃、 水分率(入口/出口)：70～75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002703	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ		計算法				試験条件			
													単位	名称	基準する規格	規格の名称	計算式		基準する規格	規格の名称	説明	
L-000482	産業(業 種固有)	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付け、繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002638	2.1	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分 率(入口/出口)：70~75%/2%以下		
								2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002641	2.12												
								2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002645	2.14												
						4室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002644	2.05	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分 率(入口/出口)：70~75%/2%以下		
								2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002647	2.05												
								2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002629	2.08												
						5室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002625	2.01	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分 率(入口/出口)：70~75%/2%以下		
								2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002621	2.01												
								2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002631	2.03												
						6室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002626	1.98	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分 率(入口/出口)：70~75%/2%以下		
								2000mmW以上2300mmW 未満	• S-002637	1.99												
								2300mmW以上2500mmW 以下	• S-002634	2												
						7室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	• S-002652	1.96	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失 熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材：ポ リエステル100%繊維、布幅：1540mmW、目付： 200g/m2、<処理条件>処理温度：140℃、水分 率(入口/出口)：70~75%/2%以下		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		参照する規格	規格の名称	参照する規格	規格の名称	説 明					
										S-002515	-													
L-000487	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	ワゴン	-	S-002498	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を単種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を単種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件				
								区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-002496	-													
								区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-002495	-													
								区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-002497	-													
								区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-002499	-													
								区分5※区分は省エネルギー法による	-		-													
L-000489	運輸	自動車	自動車 (電気型)	電気自動車(乗用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	-	S-002493	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車一充電走行距離及び交流充電電力消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車一充電走行距離及び交流充電電力消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	規格		計算方法		規格		試験条件	
														規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称		
												Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2011に基づくJC08モード	電気自動車—充電走行距離及び交流充電電力消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2011に基づくJC08モード	電気自動車—充電走行距離及び交流充電電力消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	
L-000497	家庭	給湯	給湯器(ヒートポンプ)	家庭用エコキュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	○	S-002469	2.8	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-002489	4	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-002475	3	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-002472	3.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-002481	3.3	-	寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-002485	2.9	-	寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
L-000498	家庭	給湯	給湯器(ヒートポンプ)	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率の給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房暖房で構成されている。1缶のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-002467	3.9	-	年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-002464	3	-	寒冷地年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	
L-000499	家庭	給湯	給湯器(ガス式)	ガス温水機器(エコジョーズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	●	S-002447	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠	
						暖房給湯兼用機	-	-	●	S-002442	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011及びJISS2109:2010R	家庭用ガス温水熱源機及び家庭用ガス温水機器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠	
						暖房専用機	-	-	●	S-002460	87	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011	家庭用ガス温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠	
						風呂給湯兼用機	-	-	●	S-002444	95.1	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法				試験条件					
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明	
L-000500	家庭	給湯	コーゼエ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水を供給して電気と熱を発生させるといものである。PEFC（固体高分子形燃料電池）は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80～100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG（液化石油ガス）を燃料としている。排熱効率が高く、SS（Daily Start and Stop）が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	-	-	●	S-002434	95	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠			
						-	-	-	●	S-002437	39	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠			
L-000501	家庭	給湯	コーゼエ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)	SOFC（固体酸化燃料電池）は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700～750℃である。発電効率が高く24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下）。	-	-	-	○	S-002432	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム—第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム—第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠			
						-	-	-	○	S-002430	52	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム—第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化燃料電池システム—第3部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠			
L-000502	家庭	厨房	冷凍冷蔵 機器	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮・凝縮・膨張・蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。（大型冷蔵庫の一部では既に採用されている）冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはノンフロン（冷媒）、シクロペンタン（断熱材発泡剤）を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が低い。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	定格内容積	140L以下	○	S-002409	115	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISC9801-3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法—第3部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801-3:2015に準拠	JISC9801-3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法—第3部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801-3:2015に準拠				
						140L超200L以下	○	S-002419	284														
						200L超250L以下	○	S-002411	319														
						250L超300L以下	●	S-002414	350														
						300L超350L以下	○	S-002427	259														
						350L超400L以下	○	S-002424	360														
						400L超450L以下	○	S-002412	263														
						450L超500L以下	○	S-002422	250														
500L超	○	S-002417	269																				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標																	
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	試験する規格		規格の名称		試験条件										
												単位	名称		規格の名称	規格の名称	規格の名称	規格の名称											
L-000503	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED照明は、主に直付け(シーリングカバー付型、ダウンライト型、電球型)があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたものの、発光色を切り替えるもの等が登場している。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼光色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率 (lm/W) は高くなる。	シーリングライト型	適用量数	～4.5畳	○	S-002402	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠									
								～6畳	○	S-002401	155.4																		
								～8畳	●	S-002405	160.4																		
								～10畳	○	S-002403	156																		
								～12畳	●	S-002394	160.3																		
								～14畳	●	S-002391	155.1																		
								ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-	S-002389	-										lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
								ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	S-002399	93.3										lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
								ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-	S-002396	100										lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	S-002382	85.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠																	
ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	S-002380	106	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠																	
ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	S-002406	105	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠																	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法				試験条件			
														標準規格 による評価	規格の名称	計算式	標準規格 による評価	規格の名称	説明		
						ペンダントライト型	適用量数	～4.5畳	● S-002404	125.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
								～6畳	● S-002381	138.7											
								～8畳	● S-002387	133.4											
								～10畳	○ S-002384	100											
								～12畳	● S-002385	137.4											
								～14畳	- S-002379	-											
						電球形LEDランプ箱込型、温白色、電球色、電球形LEDランプ2灯以上	-	-	○ S-002378	93.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
						電球形LEDランプ箱込型、暖白色、昼光色、白色、電球形LEDランプ2灯以上	-	-	○ S-002383	84.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
L-000504	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス (LE3+A12+FL3) (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	● S-002377	1.4	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠		
L-000505	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス (LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3) (家庭用)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	● S-002376	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠		
L-000506	家庭	空調	窓	真空Low-E複層ガラス (LE3+Ar9+FL3+VO.2+LE3) (家庭用)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	● S-002375	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		標準する規程		試験条件			
												単 位	名 称		規程の名称	計算式	標準する規程	規程の名称	説明			
L-000507	家庭	空調	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス(LE3+A6+FL3(アタッチメント付き)) (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	-	●	S-002374	2	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠
L-000508	家庭	空調	窓	真空ガラス(LE3+V0.2+FL3) (家庭用)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	-	●	S-002373	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	
L-000509	家庭	空調	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス(FL6+A12+LE5) (家庭用)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	●	S-002372	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	
L-000510	家庭	空調	窓	薄型Low-E複層ガラス(LE3+K4+FL3) (家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	-	●	S-002371	1.9	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	複ガラス類の熱抵抗及び複層ガラスの熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	
L-000511	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	-	●	S-002370	1.3	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部-一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部-フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部-一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部-フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部-一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部-フレームの数値計算方法

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報No	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準する規格		規格の名称		計算方法		標準する規格		規格の名称		試験条件	説明
												単 位	名 称		単 位	名 称	単 位	名 称	単 位	名 称	単 位	名 称				
										S-002344	0.79		W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。	
L-000514	家庭	空調	窓	三層Low-E複層 ガラス・アルミ 樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜 をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合 サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室 内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したも のである。	FIX	-	-	S-002342	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。			
									S-002341	1.22	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。			
									S-002343	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。			
L-000515	家庭	空調	窓	五層Low-E複層 ガラス・樹脂 サッシ	樹脂（塩化ビニル等）等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密 閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス（アルゴ ンガス、クリプトンガス等）を充填することでガラスの熱伝導率 の低さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開 口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたも の、2枚のガラス（一つの密閉中空層）を用いたもの、3枚のガラ ス（二つの密閉中空層）を用いたもの、5枚のガラス（四つの密閉 中空層）を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたも のが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定さ れていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来 品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住 宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	S-002340	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。			
									S-002339	-	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		標準する規格		規格の名称		試験条件	説 明
												単 位	名 称		単 位	名 称	単 位	名 称	単 位	名 称		
										S-002338	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
L-000516	家庭	空調	窓	真空ガラス・樹 脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガ ラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。	FIX※右記の水準は、一般 社団法人リビングアメ ニティ協会が提供する、窓の 断熱性能プログラム 「WindEye」を用いて算出				S-002335	1.09	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
						引き違い※右記の水準は、 一般社団法人リビングア メニティ協会が提供する、窓 の断熱性能プログラム 「WindEye」を用いて算出				S-002337	1.38	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
						緩すべり出し※右記の水準 は、一般社団法人リビング アメニティ協会が提供す る、窓の断熱性能プログラ ム「WindEye」を用いて算 出				S-002336	1.19	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
L-000517	家庭	空調	窓	真空ガラス・アル ミ樹脂複合 サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガ ラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合 サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室 内側の結露の発生や断熱性の向上を目的に一体化したもので ある。	FIX※右記の水準は、一般 社団法人リビングアメ ニティ協会が提供する、窓の 断熱性能プログラム 「WindEye」を用いて算出				S-002334	1.32	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
						引き違い※右記の水準は、 一般社団法人リビングア メニティ協会が提供する、窓 の断熱性能プログラム 「WindEye」を用いて算出				S-002332	1.66	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及びJISA2102- 2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	説明	
										S-002333	1.59	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評価	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011	建具の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1:2015及び JISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホー ムページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
L-000518	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・ 押出法ポリスチ レンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大 気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加 工することで製造する。					S-002331	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9511:2006Rまたは JISA9521:2014	発泡プラス チック保 温材または 建築用断熱 材	JISA9511:2006Rまたは JISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006Rまたは JISA9521:2014	発泡プラス チック保 温材または 建築用断熱 材	JISA9511:2006Rまたは JISA9521:2014に準拠
L-000519	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・ グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装 置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿 状にすることで製造する。	天井用				S-002329	0.034	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9521:2014	建築用断熱 材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱 材	JISA9521:2014に準拠
						壁用				S-002330	0.032	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA9521:2014	建築用断熱 材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱 材	JISA9521:2014に準拠
L-000520	家庭	断熱	断熱材	真空断熱材(家 庭用)	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。 従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱 等のリフォーム(内貼断熱工法)に向く。					S-002328	0.002	W/m・K	熱伝導率	標準規格 による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の 熱抵抗及び 熱伝導率の 測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の 熱抵抗及び 熱伝導率の 測定方法	JISA1412:2016に準拠
L-000521	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。 ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、 乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により 冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。					S-002327	0.59	kWh/回	消費電力量	標準規格 による評価		一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾 燥性能評価 方法」	一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾 燥性能評価 方法」で定める計算 式		一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」	一般社団法 人日本電機 工業会・自 主基準「洗 濯性能評価 方法」「乾 燥性能評価 方法」で定める試験 条件
L-000525	家庭	エネルギー マネジメント	エネルギー マネジメント システム	HEMS(情報提 供サービス・家 電全般)	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及 び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消 費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。					S-002326		%	エネルギー 消費効率	別紙「水 準3」の通り						
L-000527	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返 すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	冷房能力	2.2kW			S-002325	7.6		通年エネル ギー消費効 率(APF)	標準規格 による評価	JISC9612:2005	ルームエア コンディ ションナ	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2005	ルームエア コンディ ションナ	JISC9612:2005に準拠
							2.5kW			S-002321	7.6									
							2.8kW			S-002322	7.5									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	前門1	前門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称	標準条件 による評 価	標準規格 による評 価	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格
L-000532	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ループ エアコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプ サイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空 気調湿。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温 度より低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運 転が可能。	冷房能力	4.0kW	-	S-002260	4	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 13	ルームエア コンディ ション	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度(採 熱温度)については20℃とする。
L-000533	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒート ポンプ冷水シ ステム(ハイ ブリッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替え可能なヒートポン プ式の冷水冷凍装置。圧縮・凝縮・膨張・蒸発のヒートポンプサイ クルを利用して、冷暖房するシステム。暖房時はコンプレッサで 圧縮した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱交換器内で凝縮させるこ とにより、蒸発器は圧縮・凝縮・膨張後の液相冷媒を蒸発器 で液相冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることにより冷熱 を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率	加熱能力	8.0kW 11.0kW	-	S-002258 S-002259	4.3 4.15	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=ΦP、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水 温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、 湿球温度を次のとおり設定することを条件とす る。地中戻り温度(採熱温度):15℃、行き水温 (出湯温度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度: 6℃
L-000534	家庭	空調	空調機(ベ レットス トープ(家 庭用))	密閉式ベレ ットス トープ(家 庭用)	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交えることはなく、清潔な環境を保つこ とができる。木質ベレットは、カーボンニュートラルであるため、 CO2の排出削減が可能。	-	-	-	S-002257	77	%	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	$\eta = 100 - (q_a + q_b + q_r)$ 、 η : 熱効率[%]、 q_a : 試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Q_a)の比、 q_b : 熱による熱損失の割合(燃焼基準) [%]、 q_r : 試験燃料の発熱量当たり排気ガス中の 化学的熱損失(Q_b)、の潜熱による熱損失の割 合(燃焼基準) [%]、 q_r : 試験燃料の発熱量当たり 塵埃粒子を通過し、残渣物中に残った可能性構成物 質による熱損失(Q_r)の残渣物中の可燃性構成 物質による損失の割合(燃焼基準) [%]※発熱量 は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN 5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。
L-000535	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	太陽熱集熱器 対応エコキ ュー	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃ 以上の高温沸きあげ可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱 器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯 湯)ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用 するため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1倍	貯湯容量	320L以上550L未満	S-002250	3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JRA4050:200 7R	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:200 7R	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JRA4050:2007Rに準拠
								320L以上550L未満	S-002253	-	-			JIS C 9220:2011	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JISC9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設定 することを条件とする。・着露期高温条件は、外 気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温 5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保 温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・着露期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温 度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温 度68℃とする。・夜間消費電力比率は、80% とする。
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多倍	貯湯容量	320L以上550L未満	S-002255	3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JISC9220:2011に準拠
								320L以上550L未満	S-002256	-	-			JIS C 9220:2011	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒ ートポン プ給湯 機	JISC9220:2011に準拠ただし、以下のとおり設定 することを条件とする。・着露期高温条件は、外 気温(乾球温度/湿球温度)2℃/1℃、水温 5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保 温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・着露期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温 度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温 度68℃とする。・夜間消費電力比率は、80% とする。
L-000536	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ ガス式)	ハイブリッド給 湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家 庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用 状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き 上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバック アップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排 出削減を実現できる。風呂給湯専用機、給湯暖房専用機等がある。	給湯専用機(給湯: ヒート ポンプ、ガス)	-	-	S-002237	-	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒ ート ポン プ・ガ ス 瞬間 式併 用型 給湯 機 (ハイ ブリ ッド 給湯 機)の 年間 給湯 効率 測定 方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒ ート ポン プ・ガ ス 瞬間 式併 用型 給湯 機 (ハイ ブリ ッド 給湯 機)の 年間 給湯 効率 測定 方法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房専用機(給湯、暖 房: ヒートポンプ、ガス)	-	-	S-002239	-	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒ ート ポン プ・ガ ス 瞬間 式併 用型 給湯 機 (ハイ ブリ ッド 給湯 機)の 年間 給湯 効率 測定 方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒ ート ポン プ・ガ ス 瞬間 式併 用型 給湯 機 (ハイ ブリ ッド 給湯 機)の 年間 給湯 効率 測定 方法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房専用機(給湯: ヒートポンプ、ガス、暖 房: ガス)	-	-	S-002242	141	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒ ート ポン プ・ガ ス 瞬間 式併 用型 給湯 機 (ハイ ブリ ッド 給湯 機)の 年間 給湯 効率 測定 方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒ ート ポン プ・ガ ス 瞬間 式併 用型 給湯 機 (ハイ ブリ ッド 給湯 機)の 年間 給湯 効率 測定 方法	JGKAS A705-2016に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標															
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		試験する規格		規格の名称		計算方法		試験する規格		規格の名称		試験条件	
												単位	名称	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価	標準規格 による評価
										S-002246	141		年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイプ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイプ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠							
L-000537	家庭	給湯	給湯器 (石油 式)	石油温水機器 (エコフィ ール)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の 空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯舎 む)	-	-	-	S-002233	95	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法選則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法選則	JISS3031:2009に準拠							
						暖房用のもの	-	-	-	S-002232	93	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法選則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法選則	JISS3031:2009に準拠							
L-000539	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	真空管形集熱器 (強制循環型太 陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝え る役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで 構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。 外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、 高い効率を維持できる。	-	-	-	S-002231	12694	kJ/m ² ・日	単位面積1日 あたりの集 熱量	標準規格 による評 価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠								
L-000540	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	平板形集熱器 (強制循環型太 陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝え る役割の装置。平板形は集熱部が平板状になっており、表面は透 明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、 断熱材が施されている。	-	-	-	S-002230	13954	kJ/m ² ・日	単位面積1日 あたりの集 熱量	標準規格 による評 価	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:20 11	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠								
L-000541	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	蓄熱槽(強制循 環型太陽熱給湯 器用)(家庭 用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装 置。	-	-	-	S-002215	1.54	W/K	熱損失係数	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	$KA = (V \times Cp \times \rho \times (\theta_0 - \theta_e)) \div (T_{\text{max}} \theta) \times \theta_0 = ((\theta_0 + \theta_e) \times 2) \times ((\theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_n) \times n)$ KA: 熱損失係数[W/K] V: 蓄熱槽容量[m ³] θ ₀ : 試験開始時蓄熱媒体温度[°C] θ _e : 試験終了時蓄熱媒体温度[°C] T: 試験開始から試験終了までの時間[s] Cp: 蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] ρ: 蓄熱媒体の密度[kg/m ³] θ _n : 周囲温度[°C] n: 1時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠								
						-	-	-	S-002213	93.2	%	有効出湯効 率	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13、BLT SO.2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良住 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002に準拠	JISA4113:20 13、BLT SO.2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良住 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:2013、BLT SO.2015、またはSS-TS002に準拠								
L-000542	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受信機をいう。従来はバックライトにCCFL(Cold Cathode Fluorescent Lamp:冷陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオード)が主流となっている。	サイズ		液晶 18V、19V 型	S-002207	32	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	省エネル ギー法	省エネルギー法で定める計算式		省エネル ギー法	省エネルギー法で定める試験条件									
								液晶 22V 型	S-002204	34																	
								液晶 23V、24V 型	S-002196	30																	
								液晶 26V 型	S-002202	-																	
								液晶 29V 型	S-002187	-																	
								液晶 32V 型	S-002209	34																	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明	
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称		
L-00052	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に照射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外側へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずかに2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率を得られる。	-	-	-	S-002164	14.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠	
L-00053	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に照射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外側へ出力される。薄膜系は、ガラス、亜風箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。	-	-	-	S-002162	9.6	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935:2005に準拠	
L-00054	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式と比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満 10kW以上	S-002160 S-002157	98 98.4	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	
L-00055	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式と比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	S-002155	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_i \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	
L-00056	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フロベラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向き水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはフランシス水車として区別され、フロベラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	S-002151	80 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	
L-00056	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランシス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	S-002149	85 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	
L-00057	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気がタービンを用いて発電する。発生する地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満 3.0kW以上6.5kW未満 6.5kW以上45kW未満 45kW以上100kW未満 100kW以上200kW未満 200kW以上300kW未満	S-003159 S-003160 S-003161 S-003162 S-003163 S-003164	- - 5.7 * 6.2 * 6.8 *	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	説明	
														単位	名称			評価方法の タイプ
						100℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	S-003165	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$, η : 送電端発電効率[%], P : 送電端出力[kW], Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力)-(作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-003166	-								
								6.5kW以上45kW未満	S-003167	6 *								
								45kW以上100kW未満	S-003168	6.2 *								
								100kW以上200kW未満	S-003169	6.8 *								
								200kW以上300kW未満	S-003170	-								
						100℃以上120℃未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	S-003171	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$, η : 送電端発電効率[%], P : 送電端出力[kW], Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力)-(作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 115℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-003172	-								
								6.5kW以上45kW未満	S-003173	-								
								45kW以上100kW未満	S-003174	-								
								100kW以上200kW未満	S-003175	-								
								200kW以上300kW未満	S-003176	-								
						100℃以上120℃未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	S-003251	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$, η : 送電端発電効率[%], P : 送電端出力[kW], Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力)-(作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 115℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-003252	-								

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法				試験条件			
														単位	名称	参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件
												%	発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:2009	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{out} - \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 $\eta_{t,out}$: 発電端総合効 率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条 件とする。	
L-000572	エネル ギー転換	地域熱供 給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設 備	潜熱蓄熱材 (PCM:Phase Change Material) をコンテナに充填し、 PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輦により 広範囲に熱を供給する技術。	蓄熱容量、排熱源温度	蓄熱容量850kWh以上、排 熱源温度130℃以上	[eq]	エネルギー 効率	標準条件 による評 価	環境省より 独自に設 定された方 法	エネルギー効率 $[eq] = Q_{out} / Q_{in}$ 、投入エネルギー 量 $(Q_{in}) =$ 熱回収に要するエネルギー量 (Storage)、+熱輸送に要するエネルギー量 (Transfer)、+熱供給に要するエネルギー量 (Supply)、熱供給量 (Qout) = 需要先にて供 給した正味の熱供給量	環境省より 独自に設 定された方 法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、 車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを 条件とする。供給距離: 10km、車両燃費: 蓄熱 容量850kWh以上 2.5km/L、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/L							
							蓄熱容量850kWh以上、排 熱源温度130℃未満						8.8 *								
							蓄熱容量850kWh未満、排 熱源温度130℃以上						6.8 *								
							蓄熱容量850kWh未満、排 熱源温度130℃未満						4.8 *								
L-000594	廃棄物・ リサイクル	リサイクル	リン回収 設備	リン回収設備 MAP法 (し尿・ 浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシ ウム材を添加し、pH調整することによりMAP(ヒドロキシアパ タイト、Ca10(PO4)6(OH)2)の結晶を析出させる方法。回収したリン は副産りん酸肥料として再利用可能。				%	PO4-P除去率	標準条件 による評 価	環境省手引 き	リン回収・ 利活用の手 引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) /晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣 官房廃棄 物・リサイ クル対策部 廃棄物対策 課	リン回収・ 利活用の手 引き	処理量の内訳 し尿: 浄化槽汚泥= 4 : 6、し尿 T-P濃度: 270mg/L、し尿PO4-P濃度: 189mg/L、 浄化槽汚泥T-P濃度: 150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P 濃度: 60mg/L、混合T-P濃度: 198mg/L、混合 PO4-P濃度: 112mg/L				
L-000595	廃棄物・ リサイクル	リサイクル	リン回収 設備	リン回収設備 MAP法 (し尿・ 浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添 加し、pH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニ ウム、(MgNH4PO4)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化 成肥料として再利用可能。				%	PO4-P除去率	標準条件 による評 価	環境省手引 き	リン回収・ 利活用の手 引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) /晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣 官房廃棄 物・リサイ クル対策部 廃棄物対策 課	リン回収・ 利活用の手 引き	処理量の内訳 し尿: 浄化槽汚泥= 4 : 6、し尿 T-P濃度: 270mg/L、し尿PO4-P濃度: 189mg/L、 浄化槽汚泥T-P濃度: 150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P 濃度: 60mg/L、混合T-P濃度: 198mg/L、混合 PO4-P濃度: 112mg/L				
L-000596	廃棄物・ リサイクル	リサイクル	リン回収 設備	リン回収設備 MAP法 (下水汚 泥用)	脱 waters 液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の 高い下水汚泥からMAP (リン酸マグネシウムアンモニウム) として 回収する「MAP法」が平成24/25年度国文省B-DASH採択事業で開 発された。回収したリンは配合肥料 (化成肥料) として再利用可 能。	リン濃度低減の高度処理が おこなわれていること、汚 泥は消化処理がおこなわれ ていること			%	PO4-P除去率	標準条件 による評 価	国土交通省 ガイドライ ン	資料No.805 B-DASHプロ ジェクト NO.6 2014年 8月消化汚泥 からのリン 除去・回収 技術導入ガ イドライン (案)	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度) / 消 化汚泥PO4-P濃度	国土交通省 国土技術政 策総合研究 所	資料No.805 B-DASHプロ ジェクト NO.6 2014年 8月消化汚泥 からのリン 除去・回収 技術導入ガ イドライン (案)	消化汚泥濃度 (TS): 1.7%、消化汚泥T-P濃度: 600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度: 200mg/L				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単 位	名 称		適用する規格	規格の名称	適用する規格	規格の名称	説 明		
L-000598	廃棄物・ リサイクル	リサイク ル	選別機	近赤外線樹脂選 別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長 が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端 のエアノズルで吹き落とし選別する。PVC,PVDC除去（サーマル リサイクル）やPP,PS,ABS選別（マテリアルリサイクル）に使用 される。	-	-	-	S-002103	3	種類 種類	選別樹脂種 類数	標準条件 による評 価	環境省交付 規定	H27年度二酸 化炭素排出 抑制対策事 業費等補助 金（省CO2 型リサイク ル高度化設 備導入促進 事業）交付 規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省によ り独自に設 定	選別純度：99%。（ベルトコンベア幅100mmあた りの樹脂の投入量が50kg/h以内の場合）			

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準1	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準2	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準3	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有 ②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有 ③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも ④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない ⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な住宅が限定的されていない 要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能 要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能 要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能 要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能 要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準4	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有 ②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>